

# 個人投資家のみなさまへ

(2023年3月期 個人投資家向け説明)



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
(証券コード：6674)

2023年1月19日

会社概要 .....	03
事業概要と成長戦略 .....	10
株主還元と財務目標 .....	28
SDGsへの貢献 .....	31

# 会社概要

---

会社名

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
※純粋持株会社

設立

2004年4月1日  
※日本電池（1917年設立）とユアサコーポレーション（1918年設立）が経営統合

本社

京都市南区

資本金

330億円

連結売上高  
(2022年3月期)

4,321億円

連結従業員数  
(2022年3月末)

13,571名

上場市場

東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6674）



日本電池 創業者 島津源蔵がアメリカから輸入した電気自動車  
「デトロイト号」

企業理念

## 革新と成長

GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

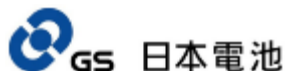
経営ビジョン

GS YUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けします。

《経営方針》

1. GS YUASAは、お客様を第一に考え、お客様から最初に選ばれる会社になります。
2. GS YUASAは、品質を重視し、環境と安全に配慮した製品とサービスを提供します。
3. GS YUASAは、法令を遵守し、透明性の高い公正な経営を実現します。

## 2人の創業者



科学の申し子と呼ばれ、さまざまな発明品を生み出し、日本の十大発明家のひとりとして選ばれた発明の人



日本電池(株)創業者  
島津 源蔵



湯浅電池製造(株)創業者  
湯浅 七左衛門



ユアサコーポレーション

優秀な頭脳と決断力で湯浅家に新風を吹き込み、事業拡大を果たし、企業の近代化を推し進めた事業の人

## 社会に役立つ革新を積み重ねてきました



### 電力の安定供給に貢献

1900年代  
予備電源用大容量蓄電池を製造



### 新しい移動手段を提供

1930年代  
初の国産電気バスに  
鉛蓄電池を提供

### 電気自動車 (EV) ブームの一翼を担う

1970年代  
高性能長寿命鉛蓄電池を開発



### 一般家庭への ラジオの普及に貢献

1920年代  
ラジオ用の蓄電池を供給



### オートバイの 小型化に貢献

1950年代  
オートバイ用小型軽量型蓄電池  
を発売



### 携帯電話の進化を支える

1990年代  
小型角形リチウムイオン電池を開発



## GS (日本電池)

1895

島津源蔵、  
日本で初めての  
鉛蓄電池を製造

1917

日本電池(株)設立

1919

自動車用  
鉛蓄電池の  
製造開始

1920

島津源蔵、  
「易反応性鉛粉  
製造法」を発明

1966

初の海外拠点となる  
Siam GS Battery Co., Ltd  
(タイ) 設立

1993

角形リチウム  
イオン電池を  
開発

1895

1900

1920

1930

1960

1990

## YUASA

### (ユアサコーポレーション)

1915

湯浅七左衛門、  
蓄電池の製造に  
着手

1918

湯浅蓄電池  
製造(株)設立

1920

自動車用  
鉛蓄電池の  
製造開始

1930

国産初の電気  
バスに鉛蓄電池  
を提供

1963

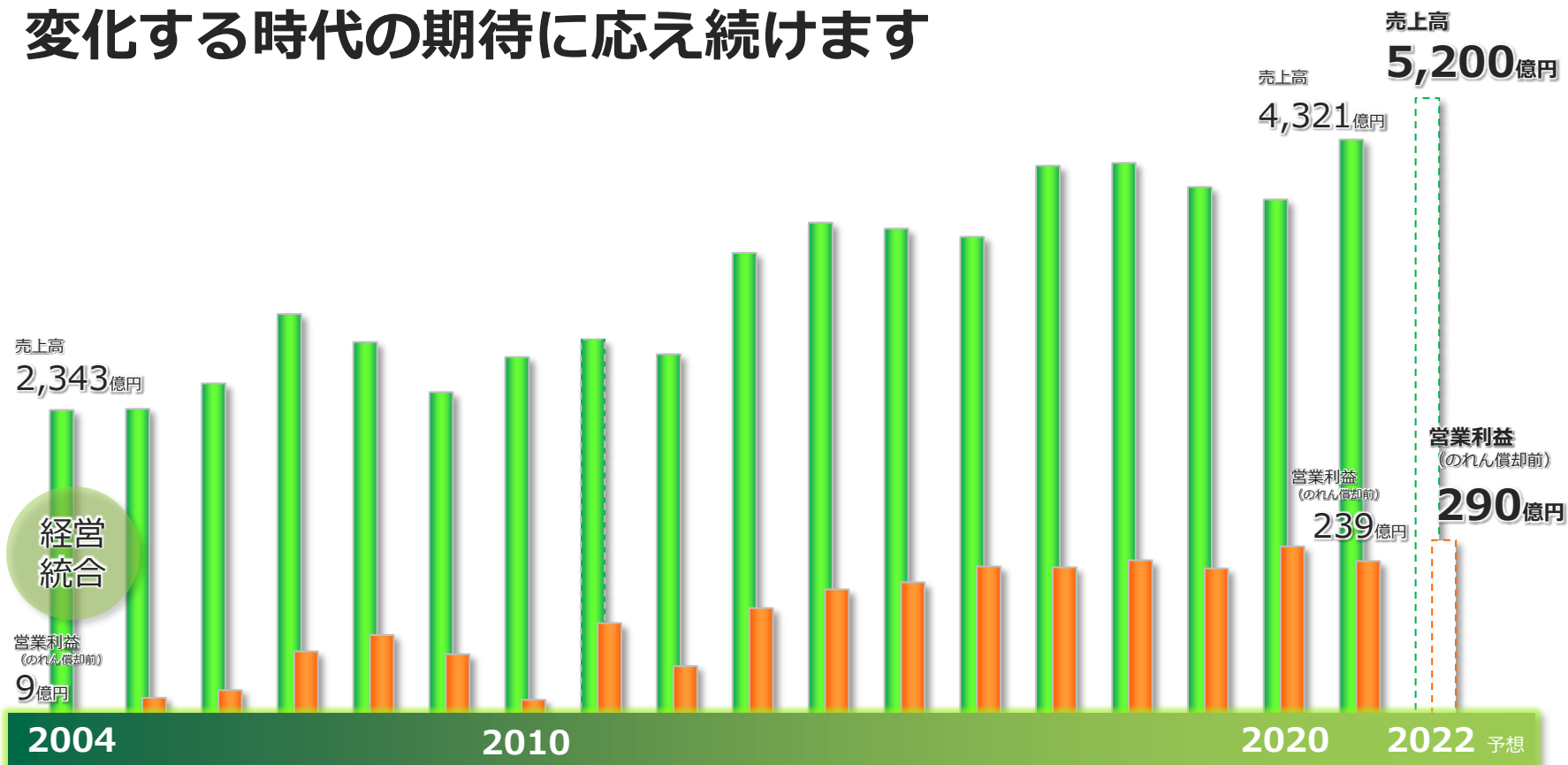
初の海外拠点となる  
Yuasa Battery (Thailand)  
Pub. Co., Ltd. 設立

1998

超薄型リチウム  
イオンポリマー  
二次電池を発売

# 価値創造の歩み-成長の軌跡

## 変化する時代の期待に応え続けます



### GSユアサ

2004  
経営統合し、  
(株)ジーエス・ユアサ  
コーポレーション  
設立

2007  
三菱商事(株)、  
三菱自動車工業(株)  
と合併会社  
(株)リチウムエナジー  
ジャパン設立

2009  
本田技研工業(株)  
と合併会社  
(株)ブルーエナジー  
設立

2016  
パナソニック(株)  
から鉛蓄電池事業  
を譲受  
(現株)GSユアサ  
エナジー

2021  
サンケン電気(株)  
から社会システム事業  
を譲受  
(現株)GSユアサ  
インフラシステムズ

2022  
トルコ拠点を  
連結子会社化



## 自動車をはじめ5つのセグメントで事業を展開しています





## 東南アジア・中国を中心に

### 19カ国37拠点を事業を展開しています



### 欧州

イギリス・スペイン・  
フランス・ドイツ・イタリア・  
ハンガリー・トルコ



### アジア

日本・中国・台湾・タイ・  
インドネシア・ベトナム・マレーシア・  
ミャンマー・インド・パキスタン



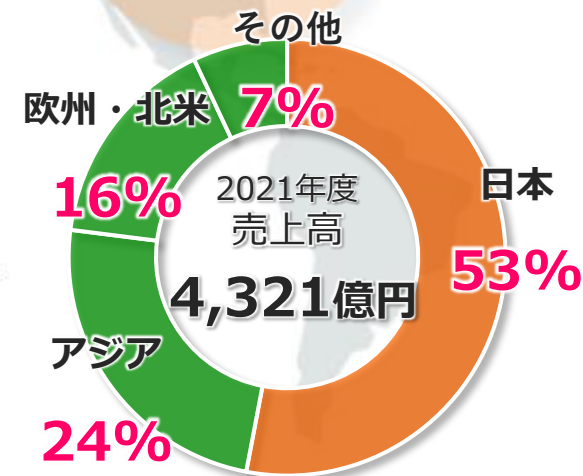
### 北米

アメリカ



### オセアニア

オーストラリア・ニュージーランド



(注) 2022年3月時点

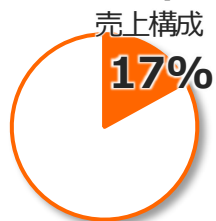
# 事業概要と成長戦略

---

## 自動車電池（国内）

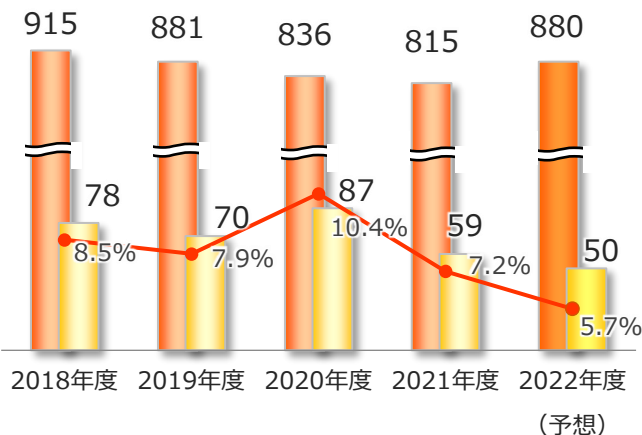
売上高・営業利益・利益率 (億円)

### <2022年度予想>



売上高  
**88,000**百万円  
営業利益  
**5,000**百万円

売上高  
営業利益  
営業利益率



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、  
営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

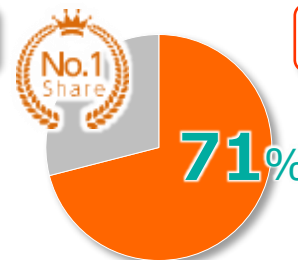


### 事業特徴

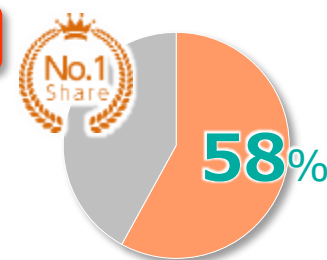
- 2016年10月にパナソニック(株)の鉛蓄電池事業を譲受 (現GSユアサエナジー)
- EN (欧州統一規格) 電池の新車搭載が増えたことで新車シェアが拡大
- ISS (アイドリングストップ) 車用鉛蓄電池の補修向け需要が増加

### 鉛蓄電池のシェア (2021年度)

新車向け



補修向け



(注) 自社調べ (輸入電池含まず)

# 事業概要：自動車電池（海外）



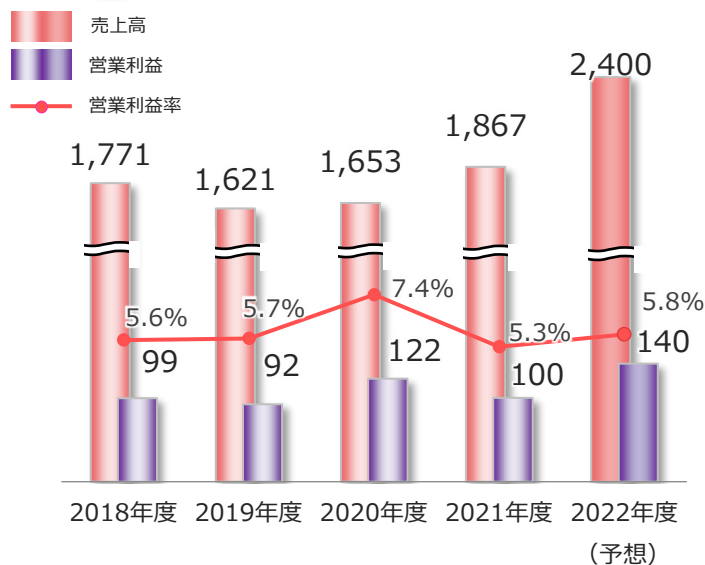
## 自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率 (億円)

### <2022年度予想>



売上高  
**240,000**百万円  
営業利益  
**14,000**百万円



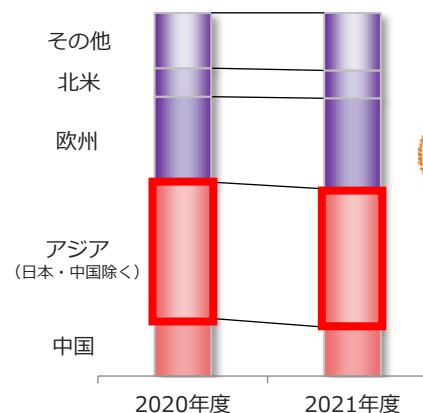
(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、  
営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。



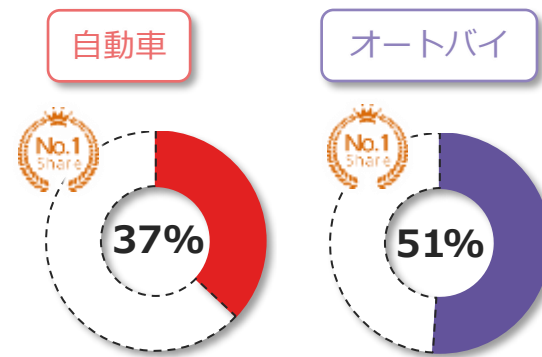
### 事業特徴

- アセアンのシェアが高い
- 自動車・オートバイ用とも補修向けが多い
- 鉛蓄電池は重量物のため地産地消が基本
- 2022年5月トルコ拠点を連結化

### 地域別売上高



### アセアンでのシェア (2021年度)



(注) 自社調べ

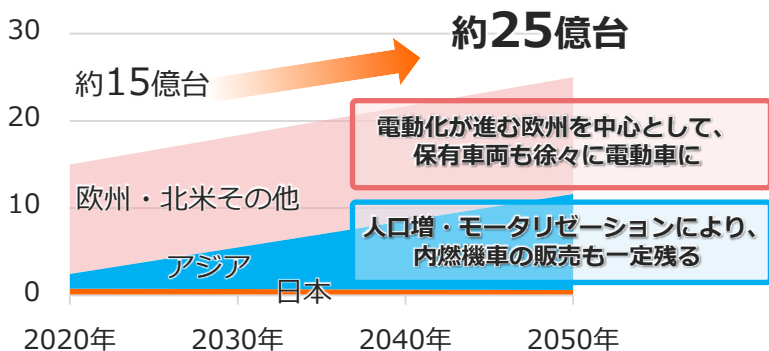
## EVやHEVなどの電動車にも1台に1つ、鉛バッテリーは搭載されています

### 現在の車種別電池の用途

用途/車種	内燃機車	HEV	PHEV	EV
駆動用 (アシスト含む)		リチウム		
エンジン始動用	鉛			
補機用 (システム起動・12V電装)		鉛		

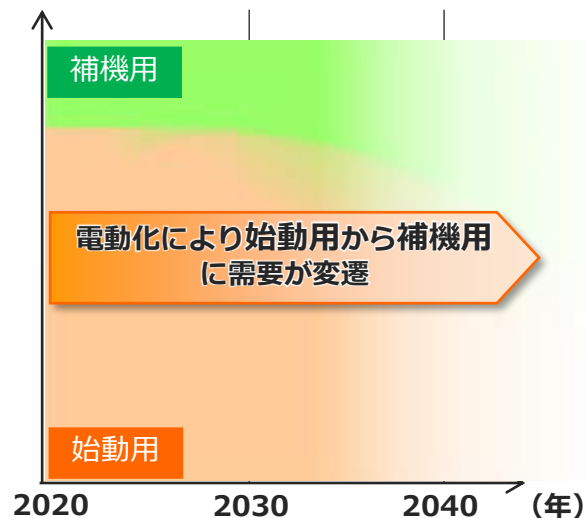
### 自動車保有台数 (グローバル)

(単位: 億台)



出典: 日本エネルギー経済研究所「自動車部門を中心とした世界のエネルギーおよび運輸需要予測」から一部推定

### 補機用電池の需要遷移イメージ



#### 補機用の増加への対応

- EVを始めとした電動車でも必ず搭載される補機用が増加

電動化が進む地域を中心とした需要の獲得

#### 始動用の減少への対応

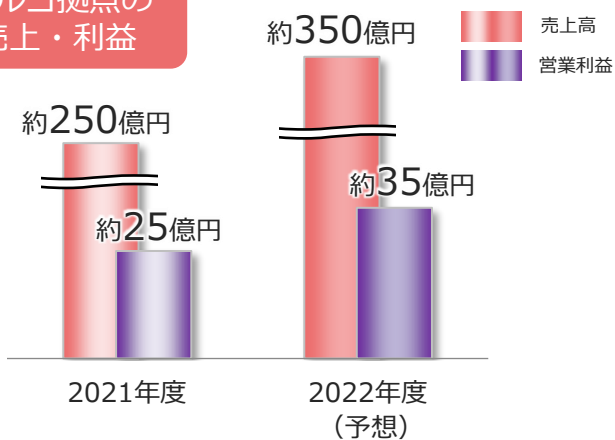
- 地域差はあるものの電動化に伴い徐々に新車向け始動用が減少

アジアなど内燃機車が残る地域で需要を獲得

## 2022年4月トルコ拠点を連結化 生産能力を強化してさらなる拡販を目指します



トルコ拠点の  
売上・利益



### トルコ拠点の戦略



□ 欧州・中近東・北アフリカエリアを中心とした重要拠点として供給体制を強化

# 事業概要：車載用リチウムイオン電池

## 車載用リチウムイオン電池

売上高・営業利益・利益率 (億円)

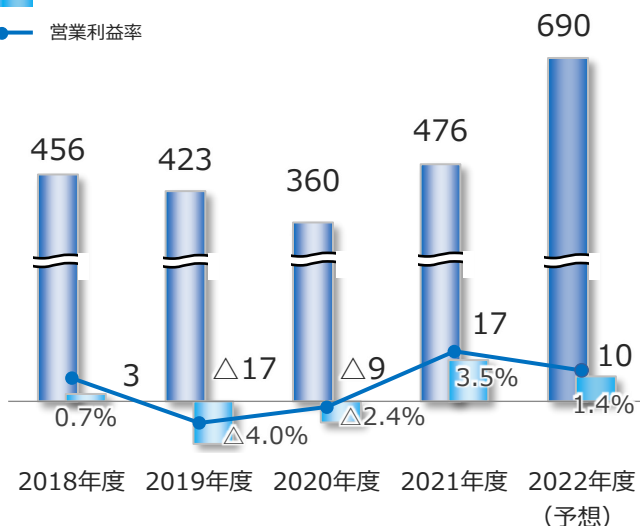
### <2022年度予想>



売上高  
**69,000**百万円

営業利益  
**1,000**百万円

■ 売上高  
■ 営業利益  
● 営業利益率



### 事業特徴

- EV・PHEV用、HEV用リチウムイオン電池  
それぞれ合弁で事業を運営
  - ・リチウムエナジー ジャパン (EV・PHEV用)  
三菱商事(株)・三菱自動車工業(株)と合弁
  - ・ブルーエナジー (HEV用)  
本田技研工業(株)と合弁

### ■ 当社が製造・販売している車載用リチウムイオン電池

#### EV・PHEV用

高エネルギー密度



・駆動用

#### HEV用

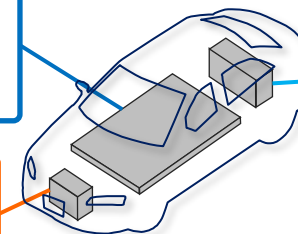
高入出力性能

・駆動/アシスト用



#### 鉛蓄電池

EVやHEVなどの電動車でも  
鉛蓄電池は1台に1つ搭載



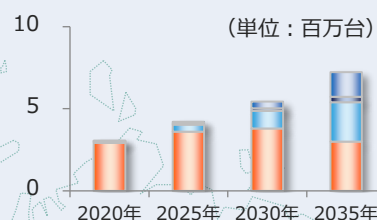
## 世界各国でCO<sub>2</sub>排出や燃費規制が強化され、環境対応車の普及が促進されています

ICE HEV PHEV EV

イギリス

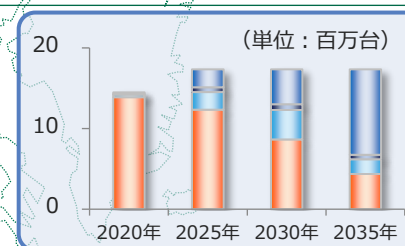
2030年までにガソリン車を2035年までにHEVを禁止

東南アジア



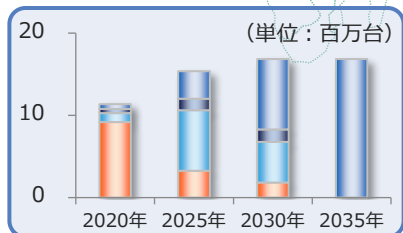
アメリカ

バイデン大統領が、2030年までに米国で販売される新車の半分以上をEVにする大統領令に署名



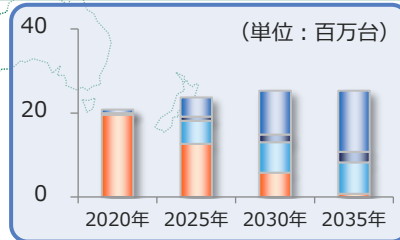
EU

2035年にHEVを含むガソリン車などの新車販売を禁止する方針



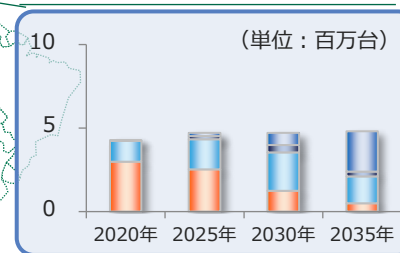
中国

2035年までに新車販売を環境対応車率100% (HEV含む)



日本

2030年代半ばまでに新車の電動車率100% (HEV含む)

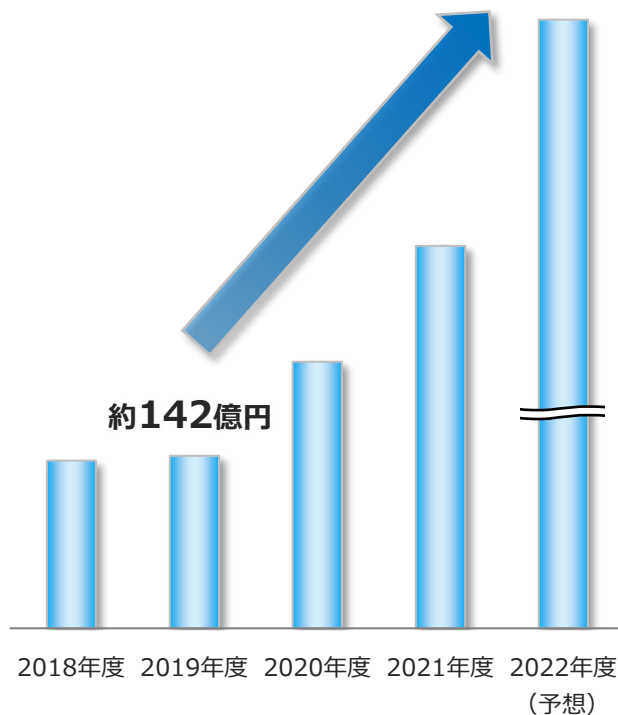


(注) 証券会社各社資料から当社推定



## 2030年代半ばまでのHEVの拡大に対応 利益を獲得し、次の成長機会に対応します

### □ ブルーエナジーの売上推移



### HEV用LiBの増産対応

- 日系自動車メーカーを中心に30年代半ばまではHEV中心

生産能力を拡大して  
需要に対応



生産  
能力

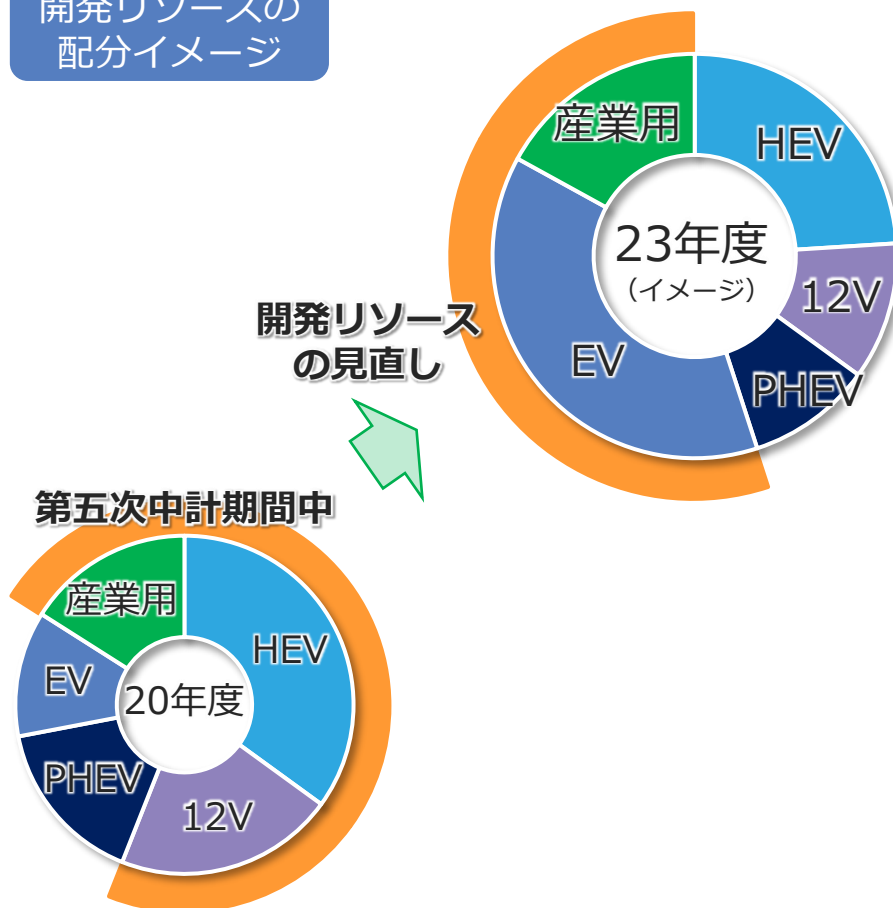
2020年度  
2,000万セル/年間

2022年度下期  
5,000万セル/年間

2020年代後半  
7,000万セル/年間

## 日系自動車メーカーと培った関係を活かし、EVの市場拡大に対応していきます

開発リソースの  
配分イメージ



### EV用LiBへの本格参入に向けて

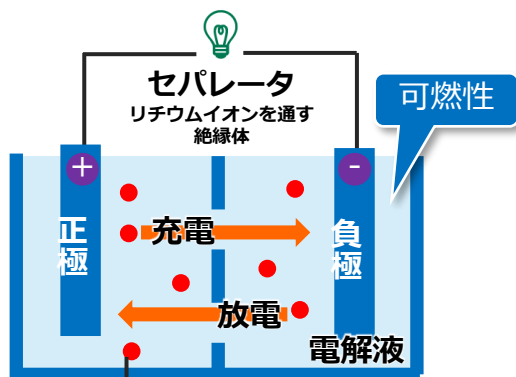
- 欧州を中心とした規制がグローバルに波及しEVが急拡大
- 日本でも30年代半ば以降はEVシフト

本格参入に向けて事業部内に  
BEV用LiBに特化した組織を設置し、自動車メーカーのニーズに対応

コスト競争力だけでなく、  
技術・安全性も重視

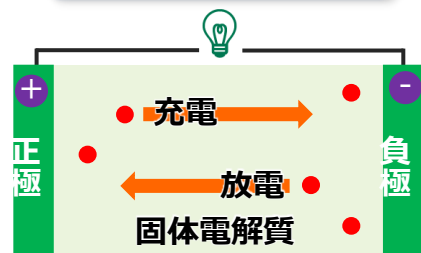
液式LiBによるEVの普及  
に貢献

## NEDOのグリーンイノベーション基金事業「EV用全固体電池」に日本企業で唯一採択され、開発を加速させます



リチウムイオン

リチウムイオン電池

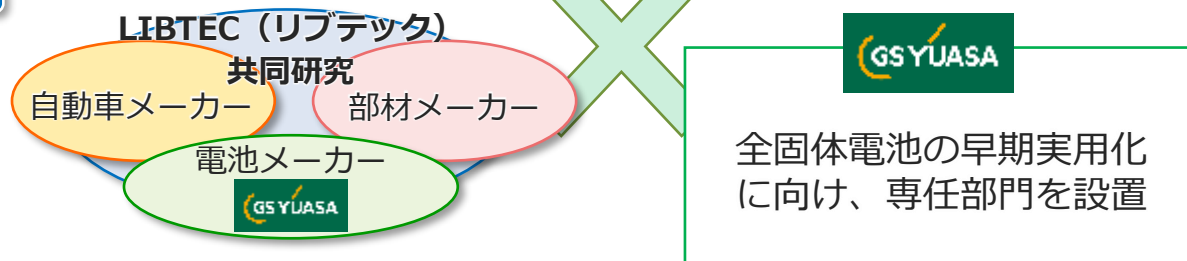


全固体電池

### 全固体電池のメリット

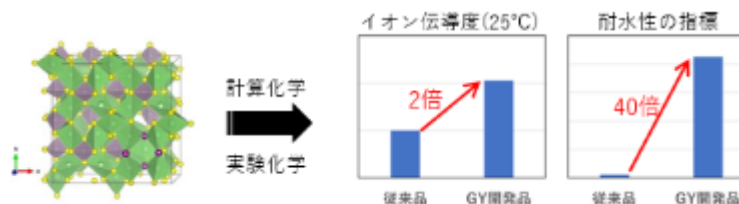
- 安全性の向上
- 高速充電
- 小型・大容量化
- 長寿命・形状の自由化

### 共同研究と独自の研究、両輪で開発を加速



### 開発項目

1. 高いイオン伝導度と優れた耐水性を兼ね備えた固体電解質の開発



2. コバルト含有量が少ない高容量正極開発
3. 長寿命かつ高容量を有する負極開発
4. 大量生産を可能にするセル設計・製造プロセス開発

## 産業電池電源

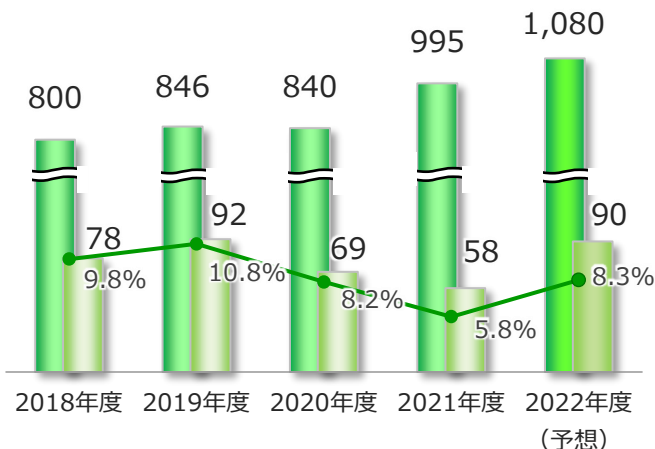
売上高・営業利益・利益率 (億円)

### <2022年度予想>



売上高  
**108,000**百万円

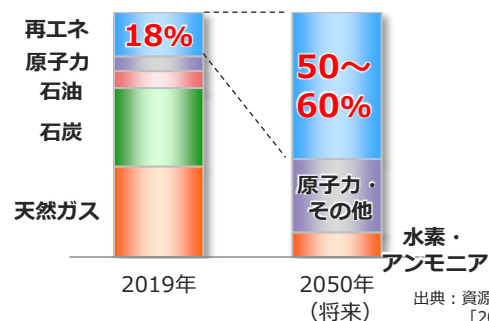
営業利益  
**9,000**百万円



#### 事業特徴

- 社会インフラのバックアップ用鉛蓄電池分野でシェアが高い
- 電源システムは受注生産で設計⇒施工・保守までワンストップで請け負うため、高利益率
- 2021年5月サンケン電気(株)の社会システム事業を譲受 (現GSユアサインフラシステムズ)

#### 再生可能エネルギーの割合



#### 2050年カーボンニュートラル宣言

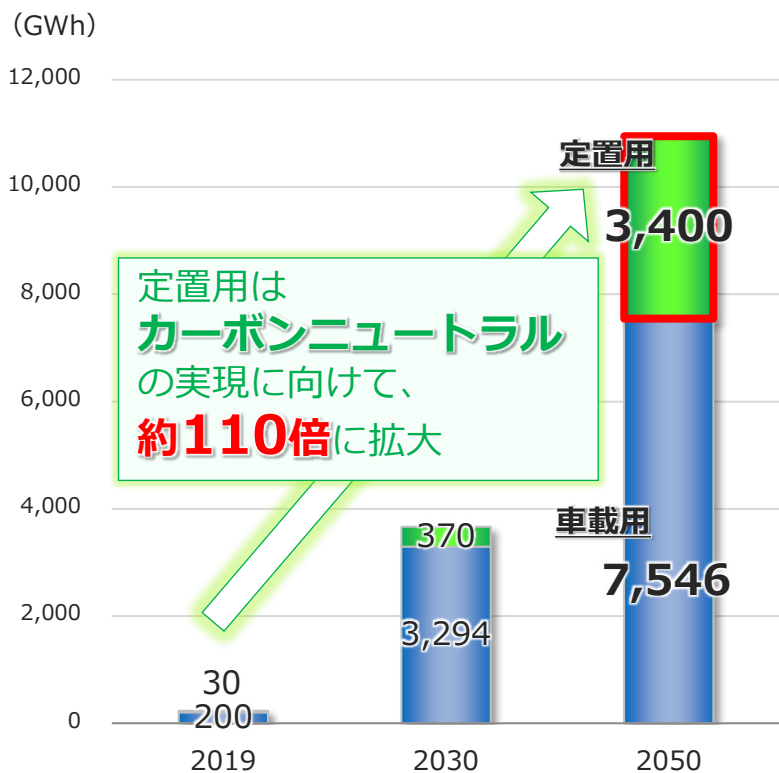
#### グリーン成長戦略

- ・ 洋上風力
- ・ 自動車・蓄電池などエネルギー、**輸送・製造、家庭・オフィス分野**で14分野を設定

出典：資源エネルギー庁「2050年カーボンニュートラルの実現に向けた検討」

## カーボンニュートラルの実現に向けて、蓄電池需要は高まっています

### グローバルでの蓄電池導入予想



出典：IRENA Global Renewables outlook 2020  
「Energy Transformation 2050」より当社作成

### 日本の蓄電池メーカーのプレゼンス拡大を狙う「蓄電池産業戦略」

#### 1st Target：液式LiBの製造基盤の確立

##### 「国内製造能力目標」

遅くとも2030年までに：**150GWh/年**

#### 2nd Target：グローバルプレゼンスの確保

##### 「グローバル製造能力目標」

2030年に：**600GWh/年**  
グローバルシェア：**20%**

#### 3rd Target：次世代電池市場の獲得

##### 「研究開発能力目標」

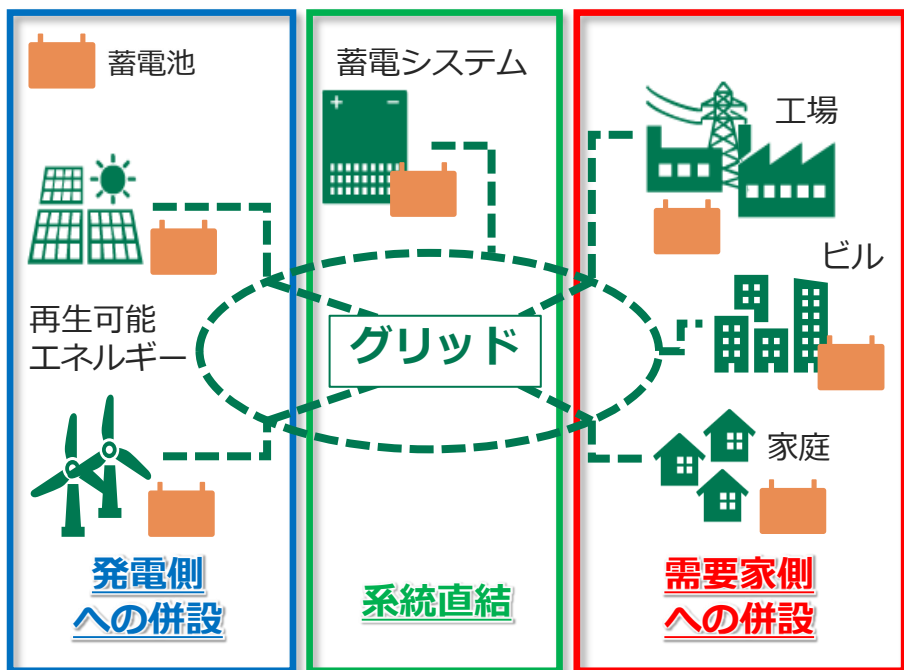
2030年頃：**全固体電池の本格実用化、技術開発をリードし続ける**

出典：経済産業省「蓄電池産業戦略」より当社作成

## 蓄電池の重要性の高まりにより、 当社のリチウムイオン電池の納入も増えています

### リチウムイオン電池の当社納入事例

#### 蓄電池のグリッド（電力網）への接続



再エネの導入拡大に伴い、  
グリッドに接続し、電力系統の調整力強化  
に不可欠な蓄電池の重要性がより高まる

#### 釧路町トリトウシ原野 太陽光発電所（北海道釧路郡）



発電所全景

- 事業者：  
（株）大林クリーンエナジー
- 出力：10MW
- 容量：6,750kWh

太陽光発電の  
出力変動緩和に貢献

#### 萩ヶ丘浄水場（北海道稚内市）



風力発電  
蓄電システムコンテナ外観

- 事業者：北海道稚内市
- 容量：2MWh

自己託送制度※における  
系統電力の需給安定を実現

#### 世界最大規模の蓄電池設備 （北海道豊富町）への納入



- 事業者：北海道北部風力送電（株）
- 出力：240MW
- 容量：720MWh

風力発電の出力変動緩和に貢献

出典：北海道北部電力送電（株）  
(<https://www.hokubusouden.com/progress/869/#contents>)

※自家発電設備を持つ企業や自治体などの団体が、発電した電力を同団体の別拠点に、一般送配電事業者の系統網を使用して供給するもの

## ネットワーク×フットワークで再エネ市場でGSユアサの強みを活かします

### ネットワーク～DXを活用した保守・運用サービス～

#### ネットワーク

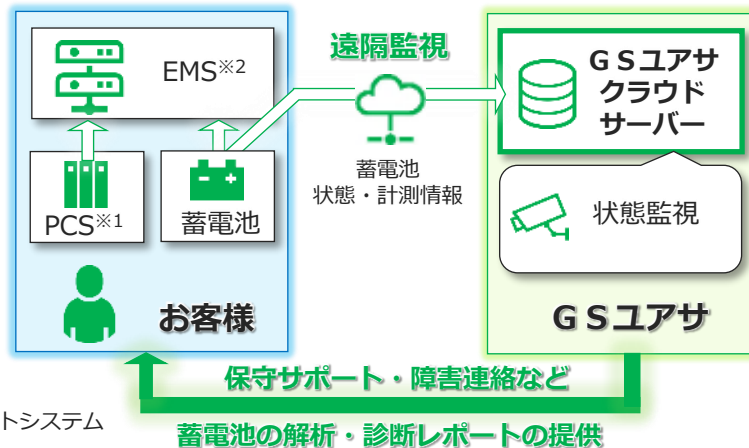
DXを活用した  
保守・運用サービス



▶ 長期間使用される発電設備に必須である安定稼働と最適制御を維持するため、AIやDXを用いた予防保全サービスを提供

※1 パワーコンディショナ  
※2 エネルギーマネジメントシステム

### STARELINKサービスイメージ



### フットワーク

～24時間365日対応可能な  
サポートサービス～

#### フットワーク

24時間365日対応可能な  
サポートサービス



▶ 日本国内100カ所以上のサービス拠点網を活用、業界最大級のサポート体制で24時間365日安心安全なサービスを提供し、BCP対応にも貢献

豊富なサービス人材  
：約**1,000**人  
※GSユアサ認定の蓄電池  
専門知識を有した者



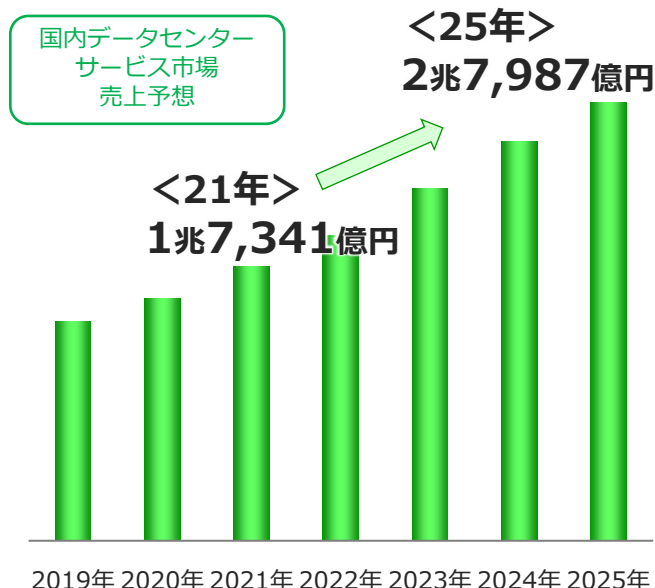
災害の激甚化から、社会インフラを守る  
電力バックアップの重要性が高まっています



出典：内閣府「過去5年の激甚災害の指定状況一覧」より



## 社会インフラをバックアップする電池電源の重要性の高まりに事業で貢献していきます



### 非常用分野の取り組み

#### 非常用バックアップ 電池電源装置の 需要拡大

- BCP※需要
- 国土強靱化需要
- データセンター需要

※BCP：事業継続計画（Business Continuity Plan）

#### サンケン電気の 社会システム事業との シナジーの最大化へ

- 電池内製化
- 通信用電源分野の強化
- 販売機種統合など

## 特殊電池およびその他

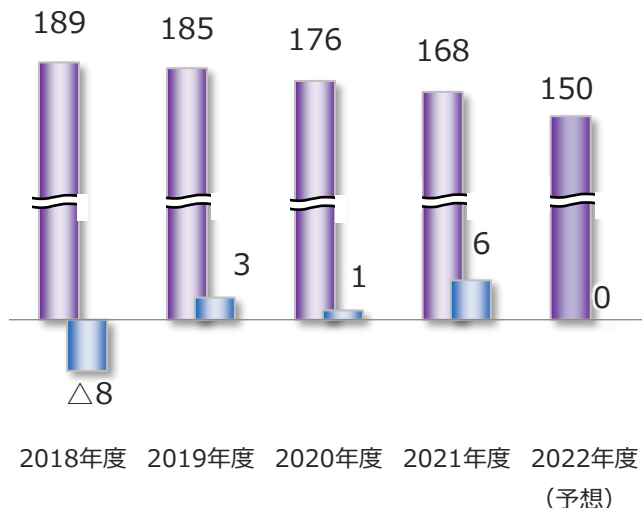
売上高・営業利益 (億円)

<2022年度予想>



売上高  
**15,000**百万円

■ 売上高  
■ 営業利益



事業特徴

- 宇宙や航空・深海など特殊環境のフィールドで使用される、高性能かつ高品質な蓄電池を供給  
電池の種類は多岐にわたり、大容量鉛電池、大型リチウムイオン電池などを取り扱っている

「深海」から「宇宙」までの極限環境



過酷な条件下でも電力を供給し続ける蓄電池を提供し、技術力のさらなる向上を図る

## 深海から宇宙まで高い信頼性が求められる極限環境でGSユアサのリチウムイオン電池が選ばれています



国際宇宙ステーション用リチウムイオン電池に採用



米国ボーイング社「787型機」



温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」

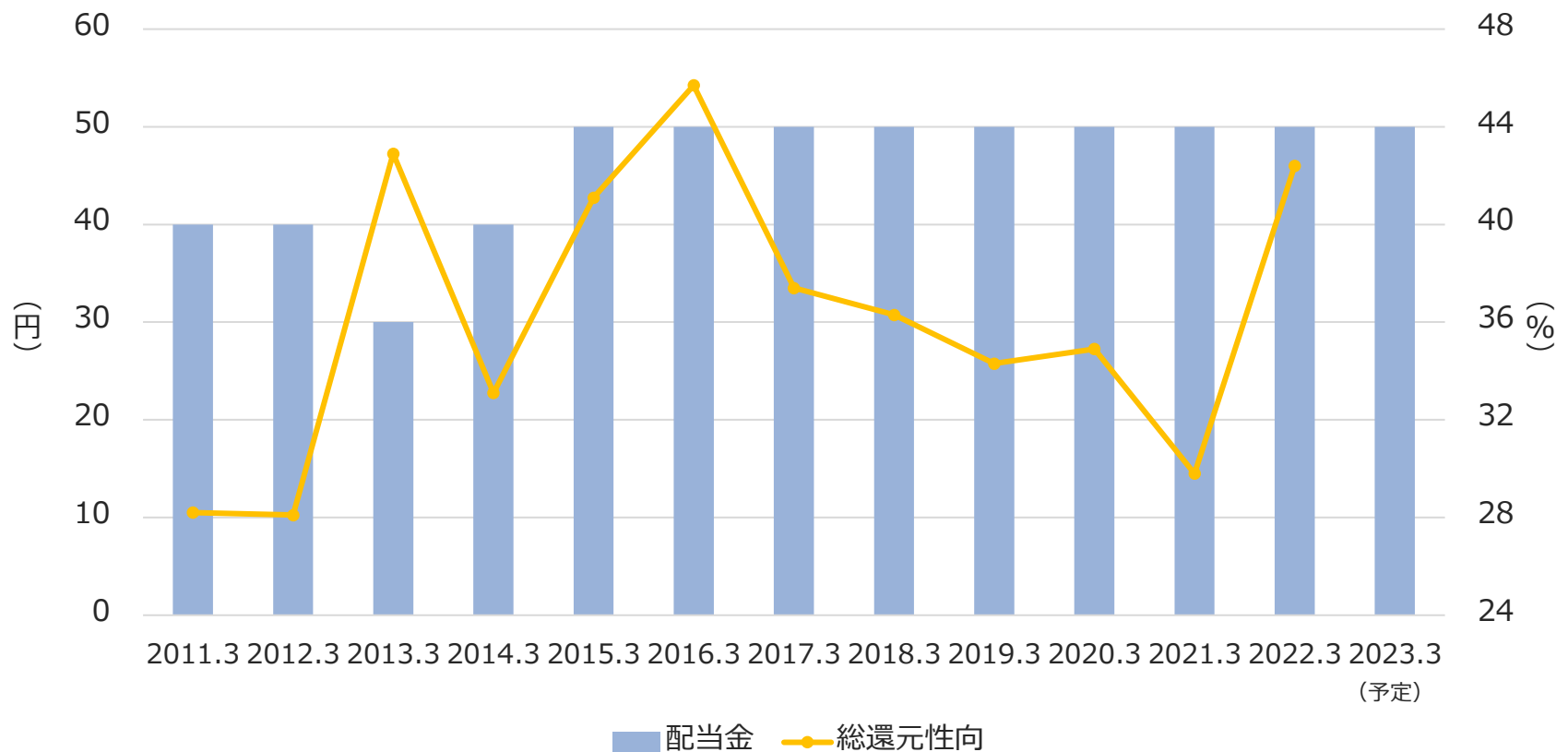


海上自衛隊向け潜水艦搭載リチウムイオン電池を製造（画像はそうりゅう型潜水艦）

# 株主還元と財務目標

---

当社は株主様に対する還元を経営における最重要課題と認識し、第五次中期経営計画でも総還元性向（配当と自己株式による還元割合）30%以上を目標として設定しています。



- 経営指標としてROE（目標：8%以上）重視、投下資本に対する効率性向上の推進
- のれん等償却前総還元性向30%以上の達成  
（株主様への安定配当の実現および資本効率の改善）

	2022年度 目標 (2022.4~2023.3)
ROE（自己資本利益率）	8 %以上
キャッシュフロー対 有利子負債比率 ※1	3 年未満
総還元性向	30 %以上
自己資本比率 ※2	45 %以上維持

※1 有利子負債（リース債務含む）/営業キャッシュ・フロー

（注）上記指標はのれん等償却前利益（営業利益・当期純利益）に対するものです。

# SDGsへの貢献

---

## 製品を通じて持続可能な地球環境への貢献に取り組んでいます

環境配慮製品の  
販売比率

実績  
(2021年度)  
**36.5%**

目標値  
(2022年度)

**35%以上**

環境配慮製品（一例）



「ISS車用バッテリー」



「車載用リチウムイオン電池」



「蓄電システム」

### 環境への 貢献





## 事業活動による環境負荷の低減に向けて さまざまな取り組みを行っています

### 空調設備の エネルギー使用量削減

工場建屋の屋根を遮熱塗装して室温の温度上昇を抑制することで、空調設備のエネルギー使用量を削減する取り組みを行っています



施工前



施工後

### 太陽光発電の導入

国内外の事業所に太陽光発電を導入。事業活動によるCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています



ベトナム拠点



ブルーエナジー第2工場

環境への  
貢献

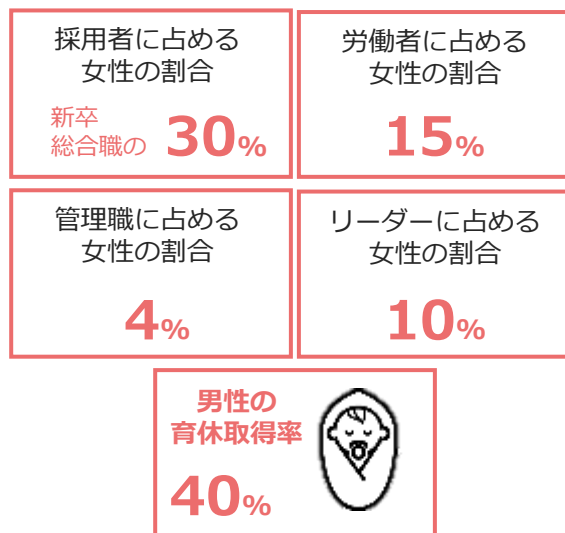
3 持続可能な開発目標  
6 安全な水と衛生  
7 再生可能エネルギー  
12 持続可能な消費と生産  
13 気候変動への対応



## 一人ひとりの個性や能力を活かし、やりがいを持って働き続けられる職場づくりとして、女性活躍推進に注力しています

### 女性活躍推進 (2024年度目標)

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを経営目標に組み込み推進しています



### 「プラチナくるみん」企業として認定



子育てサポートについて高い水準の取り組みを行う企業として、厚生労働大臣から特例認定を受けることができる制度

### 令和3年度「なでしこ銘柄」に初選定



中長期の企業価値向上を重視する投資家に、女性活躍推進に優れた上場企業を魅力ある銘柄として紹介することを通じて、企業への投資を促進し、各社の取り組みを加速していくことを目的として経済産業省と東京証券取引所が共同で選定するもの

## より強い現場をつくるダイバーシティ・マネジメントで企業価値を高めます

### キャリア形成

役員・管理職候補人材を早期発見できる仕組みの構築に取り組んでいます

#### 主な取り組み

- 次世代経営者育成研修の実施
- 外部リーダーシップ研修への派遣
- 女性従業員と上司のキャリアアップをテーマとした研修
- 女性管理職のキャリア採用の検討
- 昇進・登用におけるライフイベントの考慮と専門性に応じた役割付与
- 女性社外取締役と管理職との交流会



女性社外取締役との交流会

### 障がい者雇用率

# 2.68%

(2022年4月1日時点)

法定雇用率 2.3%を上回る障がい者雇用を実施しています

### 外国人雇用

技術・専門知識を有する外国人を、国籍を問わず採用できる活動を推進しています



京都本社に設置しているイスラム教徒向けの足洗い場



## 「3つのL」で一人ひとりが自分の色で輝き続けられる職場を目指します

## 社会への貢献





## ガバナンスの強化



## コーポレート・ガバナンス強化による公正、透明、迅速なグループ全体のガバナンスの推進

### 取締役会

- 社外取締役の増員 (2名→3名)



- ・ 社外取締役 3分の1超による取締役会のガバナンス強化

### 役員研修会



#### ≪2021年度 研修テーマ≫

- サステナブル経営について
- TCFDについて
- 経営分析について

#### ≪2022年度 研修テーマ≫

- パーパス経営について
- サステナブル経営の実践について

## 次世代経営者育成

### 監査体制の強化

#### 内部監査部門からの報告体制を強化

- ・ 監査室が内部監査室に関する事項を取締役会へ直接報告する回数を増やし、内部監査部門との連携を強化

- 初の女性社外取締役の選任 (2020年)



- ・ 多様性の確保



## ガバナンス の強化



## 社会からの信頼を得るために、高い倫理観を持った行動によって適正な利益を得ることを重要視しています

### CSR職場ミーティング

コンプライアンス意識を従業員一人ひとりに浸透させる目的に2012年度から10年連続で開催しています

#### テーマ例

- 企業理念
- CSR方針と行動規範
- ダイバーシティ
- 意図的な不正行為の防止
- 機密情報の取り扱い
- 下請法
- 個人情報の保護
- 安全保障貿易管理

### 企業倫理ホットライン

法令および社則の違反などを発見した場合、匿名で通報可能な「企業倫理ホットライン」を社内外に設置

### 知的財産の保護

事業成長に結びつくかを考慮して、PDCAを活用した知財管理を推進しています

- ① 戦略型業務への変革
- ② 事業部密着型の知財創出  
クリアランス活動
- ③ 外国競合の排除

### 経営層とのコミュニケーション

経営層と知財戦略方針を期初に検討し、経営ヒアリングで達成状況や、新たな課題などを報告しています

#### 検討テーマ例

- 全固体電池に関する自他社の特許情報
- GSユアサ インフラシステムズとの特許におけるシナジー効果

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



#### 連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
コーポレート室（広報）  
Tel : 075-312-1214  
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

# 【参考】情報発信（メルマガ）

株主・投資家情報サイトの「IRメール配信登録」から登録できます。決算や説明会、ニュースリリースなど当社のIRに関する有益な情報を発信しています。

The screenshot shows the Investor Relations website with the following elements:

- Header: 株主・投資家情報 (Investor Relations)
- Section: IRトピックス (IR Topics)
- Navigation: 決算短信 (2022年3月期 第2四半期), 決算説明会資料 (2022年3月期 第2四半期), 決算説明会声・動画 (2022年3月期 第2四半期)
- Current Stock Price: 現在の株価 2,333円 (-1.19%)
- IR News: 2021.11.30 株主のみなさまへ(第18期 第2四半期 決算のご報告)を掲載, 2021.11.30 「インベスターズガイド2021」を更新, 2021.11.29 コーポレート・ガバナンス報告書を更新
- Access Ranking: 1 決算説明会資料, 2 決算短信, 3 ファクトブック
- IR Calendar, IR Information Download, and IR Email Registration (highlighted in a red box)

こちらから  
ご登録できます。

# 【参考】 株価推移



足元情報 (1月13日現在)  
終値 : 2,134円 (△26、△1.20%)  
始値 : 2,162円 高値 : 2,166円 安値 : 2,129円 前日終値 : 2,160円 出来高 : 278,400



# 【参考】2022年度業績予想



	2021 年度 実績	2022 年度 予想		(億円) 増減	
		当初	下期	当初	下期
売上高	4,321	5,200		+879	
営業利益 (営業利益率)	227 5.2%	280 5.4%		+53 +0.2P	
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	239 5.5%	290 5.6%		+51 +0.1P	
経常利益	247	280		+33	
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	85 2.0%	120 2.3%		+35 +0.3P	
のれん等償却前親会社株主に帰属する 当期純利益 (のれん等償却前当期純利益率)	95 2.2%	130 2.5%		+35 +0.3P	
ROE (自己資本利益率)	4.6%	-		-	
年間配当金	50円/株 (予定)	50円/株 (予想)		±0円/株	
自己株式買入額 (次年度予定額)	-	-		-	
総還元性向	42.4%	-		-	
		当初	下期	当初	下期
国内鉛建値 (万円/t)	31.64	34.1	34.0	+2.46	+2.36
LME (US\$/t)	2,283	2,300	1,950	+17	△333
為替 (円/US\$)	113.04	120.0	142.5	+6.96	+29.46

(注) ROEおよび総還元性向は、のれん等償却前当期純利益に対するものです。

# 【参考】2022年度 第2四半期業績



(億円)

	2021 年度 第2四半期 (累計)	2022 年度 第2四半期 (累計)	増減	(前期比)
売上高	1,951	過去最高 2,352	+401	(+20.6%)
営業利益 (営業利益率)	52 2.7%	過去最高 82 3.5%	+30 +0.8P	(+57.3%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	64 3.3%	過去最高 88 3.7%	+24 +0.4P	
経常利益	66	60	△6	(△8.4%)
特別利益	15	15	△0	
特別損失	17	3	△14	
税前四半期純利益	64	72	+8	
法人税等	21	32	+11	
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	23	+1	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	22 1.1%	17 0.7%	△5 △0.4P	(△22.4%)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	32 1.6%	22 0.9%	△10 △0.7P	
国内鉛建値 (万円/t)	30.52	34.17	+3.65	
L M E (US\$/t)	2,234	2,090	△144	
為替 (円/US\$)	110.10	135.30	+25.20	

# 【参考】2022年度業績予想（セグメント別）



(億円)

		2021 年度 実績		2022 年度 予想		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	815	59 (7.2)	880	50 (5.7)	+65	△9 (△1.5)
	海外	1,867	100 (5.3)	2,400	140 (5.8)	+533	+40 (+0.5)
産業電池電源		995	58 (5.8)	1,080	90 (8.3)	+85	+32 (+2.5)
車載用リチウムイオン電池		476	17 (3.5)	690	10 (1.4)	+214	△7 (△2.1)
特殊電池およびその他		168	6 (3.4)	150	0 (-)	△18	△6 (-)
合計		4,321	239 (5.5)	5,200	290 (5.6)	+879	+51 (+0.1)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

# 【参考】2022年度 第2四半期業績 (セグメント別)

(億円)

		2021 年度 第2四半期 (累計)		2022 年度 第2四半期 (累計)		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	352	18 (5.0)	377	18 (4.7)	+25	△0 (△0.3)
	海外	876	43 (4.9)	1,218	61 (5.0)	+342	+18 (+0.1)
産業電池電源		460	△2 (△0.3)	404	8 (1.9)	△56	+10 (+2.2)
車載用リチウムイオン電池		184	2 (0.9)	273	2 (0.7)	+89	+0 (△0.2)
特殊電池およびその他		79	2 (2.9)	80	△0 (△0.5)	+1	△2 (△3.4)
合計		1,951	64 (3.3)	2,352	88 (3.7)	+401	+24 (+0.4)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。